

第 15 期 葛飾区社会教育委員の会議（第 11 回）会議録

● 開催日時 令和 8 年 7 月 10 日（金） 午後 2 時～ 4 時

● 会 場 区役所 706 会議室

● 出席者

社会教育委員 （8 人）

大島 英樹	歌川 光一	竹内 理恵	藤野 尚子
白城 和美	遠藤 勝美	伊藤 香織	足立 成幸

事務局職員（4 人）

生涯学習課長	土居 真喜
生涯学習課学び支援係長	佐藤 吉裕
生涯学習課担当係長	本多 学
生涯学習課学び支援係	矢作 孝寛

オブザーバー（3 人）

地域教育課地域家庭連携係長	島村 智志
地域教育課地域家庭連携係主査	石出 恭子
地域教育課地域家庭連携係（社会教育主事）	濱田 倫朗

合計 15 人

次第

1 報告事項

- （1）社会教育関係団体への補助金支出についての質問回答
- （2）社会教育関係団体への補助金支出についての答申
- （3）地域教育課からの情報提供

2 議 事

（1）協議テーマについて

発表者 白城委員、遠藤委員

発表内容 ア 活動していること

イ 生活の中の P T A

ウ P T A はこうあってほしいと願うこと

（2）提言書構成案について

（3）その他

令和 8 年度の会議スケジュール

【配付資料】

- ・社会教育関係団体への補助金支出についての質問回答（生涯スポーツ課）[資料 1]
- ・社会教育関係団体への補助金支出についての答申 [資料 2]
- ・三鷹市視察概要 [資料 3]
- ・葛飾区学校運営協議会の設置について [資料 4]
- ・コミュニティ・スクールの作り方 [資料 5]
- ・白城委員発表資料 [資料 6]
- ・提言書構成案 [資料 7]
- ・令和 8 年度の会議スケジュール [資料 8]
- ・かつしかの文化財 第 120 号
- ・「葛飾柴又の文化的景観」ニュース Vol. 16
- ・チラシ（柴又川甚まちなみ館）

○事務局 本日はお暑い中、お集まりいただきましてありがとうございます。ただいまから、第11回社会教育委員の会議を始めさせていただきます。

地域教育課の職員3人がオブザーバーとして参加しております。なお、生涯学習課長ですが、この後公務がございますので、30分ほどで退席させていただきます。ご了承ください。

本日、傍聴人がお1人いらっしゃいます。どうぞお入りください。

続きまして、前回の会議録につきましては、近日中にホームページにて公開いたします。

配付資料のご説明をさせていただきます。資料1は補助金支出についての質問への回答、資料2は補助金支出についての答申です。資料3から5につきましては、地域教育課から提出のあった資料でございます。資料3は三鷹市コミュニティ・スクール視察の概要、資料4は葛飾区学校運営協議会の設置について、資料5はコミュニティ・スクールの作り方についてです。また、資料6は白城委員発表資料、資料7は提言書の構成案、資料8は今年度後半の会議スケジュールでございます。

そのほか、葛飾の文化財、葛飾柴又の文化的景観ニュース、7月18日オープンの柴又川甚まちなみ館のチラシを配付しております。

なお、文化協会への質問に対する回答につきましては、次回の会議の際に回答書を提出させていただきます。資料の説明は以上でございます。

それでは、この後の進行は大島議長にお願いいたします。

○議長 改めまして皆さん、こんにちは。まず初めに、社会教育関係団体への補助金支出についての質問回答について、事務局からご説明いただいてよろしいでしょうか。

○事務局 前回、遠藤委員と竹内委員から質問のあった、スポーツ協会の会議費と支払手数料が増加している理由についてですが、会議費については、計画外事業の増加に伴い、会議の開催回数が増えているとのことです。また、支払手数料については、これまで事業費に計上していた部活動の地域移行にかかる手数料を支払手数料へ計上するよう整理したため、増加しているとのことです。

遠藤委員、竹内委員、担当課からはこのような回答が来ておりますが、ご質問に対する回答としてよろしいでしょうか。

○竹内委員 はい。

○遠藤委員 はい、気になるところもありますが。

○事務局 どちらでしょうか。

○遠藤委員 金額の増加幅が3倍になっているところです。協会内部の話であり、補助金とは関係ないと思いますが。

○議長 竹内委員はいかがでしょう。

○竹内委員 支払手数料へ計上したということですね。別の費目があればよかったと思います。

○議長 納得のいく数字や説明内容が示されて、それが分かるということは、提出資料において大事なことだと思いますので、そこに疑問が残るのはもったいないことだなと思い

ます。これ以上は深追いしないということで、皆様もご納得いただけたということによろしいでしょうか。ありがとうございます。

次に、社会教育関係団体への補助金支出についての答申ですが、資料2をご覧ください。前回の会議で、私たちは補助金支出について、それぞれ担当課長から説明を受け、審議を行ったところです。その結果を、皆さんにご覧いただいている答申としてまとめております。

申請内容については、審議を行った5団体全てについて、補助金の支出は妥当であるとの結論に至りましたので、こちらの答申を提出いたしました。皆様にもご了承いただければと思いますが、よろしいでしょうか。

続きまして、地域教育課からの情報提供についてですが、事務局からご説明いただけますでしょうか。

○事務局 資料のボリュームがあるため、この内容について皆様にご確認いただく時間がございません。つきましては、次回の会議までに各自お読みいただき、確認しておきたい点や聞いてみたい点がありましたら、次回の会議にお出しいただく形で進めていきたいと思っております。

○議長 ありがとうございます。ご覧いただいている資料3から5ですが、本日も地域教育課の方にオブザーバーとしておいでいただいております。

今期の社会教育委員の会議では、PTAのあり方について昨年度から議論してきましたが、現在進められているコミュニティ・スクールとの関わり抜きには、そのあり方を検討できないということで、理解を深めてきたところです。

資料5は文部科学省が作成した手引き、資料4は地域教育課が作成した葛飾区学校運営協議会の設置について、資料3は三鷹市で既に進められているコミュニティ・スクールを視察された際の報告資料となっています。こちらについて、お目通しいただければと思います。

後ほどの議事にも出てきますが、年度末に提言としてまとめていく際には、このコミュニティ・スクールの考え方や区の進捗状況等も踏まえた提言になればと思います。

せっかくおいでいただいておりますので、お話を伺えればと思うのですが、オブザーバーという立場ですので、難しいところもあるかと思っております。私たちもまだ共有できてない情報もあると思っておりますので、次回以降もタイミングが合えばおいでいただけるのでしょうか。

○地域教育課 必要な資料等があれば、こちらで可能な限りご用意いたします。また、今回の資料に関する説明につきましても、ご質問いただいた内容によりますが、可能な限り回答させていただきます。

○議長 ありがとうございます。それであれば、いろいろとやり取りをさせていただければと思います。報告事項については、以上とさせていただきます。

それでは、議事に入ります。協議テーマについてということで、新しく委員になられた白城委員、遠藤委員のお二方から、ご自身の取り組んでおられる活動についてご報告いただきたいと思います。内容としては、活動していること、生活の中のPTA、PTAはこうあってほしいと願うことに触れながらお話いただければと思います。

それでは、白城委員からお願いいたします。

○白城委員 お時間をいただきありがとうございます。資料の1枚目が昨年度の活動報告です。数だけ見るとよく頑張ったと思いますが、昨年は本部役員が5人でした。委員会もなくなってしまったので、5人で話し合いながら、これだけの活動を行いました。

2枚目の資料は、今年企画している肝試しです。一昨年やったところ、子どもたちにとっても好評でした。昨年はやらなかったのですが、なぜやらないのかという声もありましたので、今年はやろうと企画しています。

ただ、今年は昨年よりも本部の人数が減り、中心となって動いているのが3人という状況です。それでも前回と同じくらいのことをやりたいと思って企画しています。学校運営についてPTAが口を出すことはできませんし、勉強に関して手助けすることもできませんが、子どもたちが楽しめることをPTAとして企画して、やっていきたいという思いで活動しております。

基本的には、学校の時間外に行うイベントで、ハロウィンや肝試し、読み聞かせなどをやっています。また、広報の取材も行っています。自分たちの子どもが学校でどのような生活をしているのかを保護者が見る機会はほとんどないため、それを少しでも知ってもらえればと思い、公式LINEを活用して取材した写真を配信しています。

本当に子どもたちが楽しんでくれればいいという思いで活動していますが、PTAに対する評判やイメージとして、私たちは楽しく活動しているつもりでも、PTAに一度関わると逃げられない、引きずり込まれるといった印象を持たれている方が未だに多くいらっしゃいます。

そのため、お手伝いをお願いしても、一度手伝ったら本部に入ることになるのではないと思われる方が多く、お手伝いを募集してもなかなか集まらないのが現状です。

イベントを実施する際にまず考えるのは、どれだけお手伝いの方が集まってくださるかということです。本部の人数が少なくても企画を立てることはできますが、当日の子どもたちの見守りなどを考えると、お手伝いの方が集まらなければ実施することができません。

私たちが取り組んでいるPTAはそういう場所ではなく、本当に子どもたちに楽しいと思ってもらえることを、大人も一緒にできたらという思いで活動しているのですが、それをどのように伝えたらよいのか、日々考えています。

固い言葉を使わずに発信したり、お菓子があるから話し合いに来てほしいと誘ったりもしていますが、それでも来てくれる方はほとんどいません。

PTAの本部で集まる際に、名札の販売を始めました。名札は指定のお店に買いに行かなければならず、不便だという声があったため、PTAで販売してみたところ、買いに来てくださる方が多くいらっしゃいました。

その際に、少し話ができそうな方に、PTAについてどう思いますか、今度肝試しがあるのですが、お手伝いはどうですかとお聞きすると、PTAにはあまり良いイメージがありませんと皆さんおっしゃいます。

少し手伝いたいという気持ちはあっても、怖い、かしこまっている、しっかりした人たちがやっているというイメージがあり、しっかりした文章も書けない私が入れるような場所ではない、敷居が高いと言われます。

そのたびに、そんなことはありませんと説明するのですが、こちらの思いがなかなか伝わっていないことを実感します。本当にいろいろな思いをもって活動していますが、その思いが保護者の皆様にはなかなか伝わらず、悲しいというか、辛いというか、もどかしいというか、そのような気持ちを抱えながら活動しております。

○議長 今行っている活動や、暮らしの中のPTAという点では、白城委員にとってどのような比重なのでしょう。

○白城委員 かなり大きな比重を占めています。上の子が幼稚園の頃から関わっているので、もう5年～6年になります。

子どもたちの中でも、PTAの仕事をしているお母さんが当たり前になっていて、何か作業をしていると、それはお金がもらえる仕事なの、もらえない仕事なのと聞かれます。これはお金がもらえない仕事だよと言うと、じゃあPTAの仕事だねと言われます。

家の中では、お金のもらえない仕事をしているお母さんとなっていますが、それに対して子どもたちが負のイメージを持っていることはありません。ただ、これが生活の一部に仕事として入り込んだら、つらいと感じる人はたくさんいるだろうなと思います。

PTAをやることで仲間ができたり、将来もつながり続ける一生の友達ができたりするという話は、先輩方からよく聞きます。ただ、つらい時期を共にしたから仲が良いというのではなく、楽しいことを一緒にできる仲間としてつながれたらいいのにと考えています。

また、子どもがその姿を見て、PTAっていいなと思ってくれたらいいなとも思います。家で親がPTAはしんどい、楽しくないと言っていたら、子どももそう思ってしまいます。だからこそ、楽しい活動だということを、しっかり伝えられたらいいなと思っています。

○議長 それでは、白城委員のご報告について、ご感想やご質問を伺いたいと思います。お二人には、新たにメンバーに加わっていただいた中で、いきなりご自身の話をしていただくという突然のお願いとなりましたが、去年は委員の皆様から順番にご自身の活動についてご報告いただきました。

様々な経験を伺っていく中で、共通しているところや異なるところを確認しながら、議論をまとめていければと思っています。そのようなところもありますので、既にご報告いただいた皆様から、ご自身の経験も交えながらご質問いただけたらと思います。

○竹内委員 私の場合は、子どもが小学生の頃、転勤族でした。どこの学校に行ってもPTAをやっていました。転勤族で友達がいらない中、全く知らないところへ行っても、すぐに仲間を作れるのはPTAしかなかったからです。

転勤族なので何年そこにいるのか分かりませんし、下の子も小さかったため仕事もできず、ずっとPTAをやらせていただきました。その流れで、今は学校評議員をしており、今でもPTAとの関わりが続いています。

本部が5人から3人になってしまったとのことですが、イベントや肝試しは本部3人だと、何人くらいボランティアがいればできるのでしょうか。また、ボランティアの募集はどのようにしていますか。

○白城委員 募集は、学校で使っているホーム&スクールで案内するほか、P T Aの公式LINEがあるので、LINE上でお手伝いが何人必要ですという形で呼びかけています。ただ、それだけだと3人くらいしか集まりませんでした。

その後、お手伝いが集まっておりません、このままだとイベントは中止になりますと流したところ、さらに10人くらい集まりました。

皆さん、お手伝いが嫌なわけではなく、誰かがやってくれるなら自分はやらない、自分がやらないことでイベントがなくなってしまうなら手伝ってもよいと考えている方が多いように感じています。

○竹内委員 ボランティアはいつも同じ方ですか。

○白城委員 同じ方はほとんどいません。毎回手伝ってくれる方は1人か2人です。

○竹内委員 中学生のボランティアは何人くらい来ますか。

○白城委員 中学生のボランティアについては、公に募集しているわけではありません。誰でも参加できるという形にしてしまうと運営上大変なので、お手伝いに来てくれる方に対して、もしお子さんでお手伝いしたい方がいたらいいですよという形にしています。毎回4人～5人くらい来てくれます。

花の木小学校の隣に金町中学校があるのですが、花の木小学校でこういうことをやるらしい、中学生もボランティアができるらしいといった話が広まるようで、前回肝試しをやった際には、噂を聞きつけて来た子どももいました。お手伝いをしたいと思っている子どもたちは意外と多いことが分かりました。

○議長 最後の方にお話のあった、手伝いたいというところについては、昨年も委員の皆さんとやり取りをしました。私自身の話になりますが、PでもTでもない立場の人間が学校に入れてほしいと言ったらどうなるのかと伺ったところ、それは難しいというお話でした。

まさに中学生も自由に参加できるわけではなく、誰かの紹介があって参加しているというところが、P T Aの組織を考える上で大事な部分なのだと思います。

どこまでをその範囲と考えるのか、また、その範囲を超えた活動をどのように広げていくのか、広げる際にどのような役割分担をしていくのかということが、大事な論点として少しずつ見えてきているように感じます。

そうした仕組みがあれば、私もそのルートからであれば喜んで参加できますが、現在のP T Aの組織の考え方としては、全くの第三者が関わることは想定されていないのかなと思いました。

○白城委員 来てくれた中学生は、本当に一生懸命やってくれます。中学生のボランティアがたくさんいてくれれば、私たちとしてももっと活動しやすいのですが、学校からセキュリティ面のことを言われると、そうですよねとしか言えません。

○藤野委員 P T AのOBに頼んだりはしないのですか。

○白城委員 OBとはあまりつながりがありません。

○藤野委員 うちの地域では、小学校と中学校でお祭りのような行事をやっていますが、今でもお手伝いの声がかかります。行ってみると、近くの中学校のP T AのOBも来ています。そうすると、中学校で行事をやる小学校のP T AのOBが手伝いに行くなど、お互いに協力する関係ができていて、持ちつ持たれつでやっているようです。

○Bに声をかけることで、その方の中学生や高校生のお子さんが手伝いに来るなど、広がっていくのかなと思います。

お話を聞いていて、本部5人でこれだけの活動をされていたのかと驚きました。今年は3人とのことですので、かなり大変だと思います。

中学生のボランティアは、学校を通して頼んでいるのでしょうか。私たちの地区委員会では、ロードレース大会の際に、中学生ボランティアを20人から30人出してくださいと、学校に依頼しています。お菓子やお弁当も用意して、子どもたちも楽しみながら参加してくれています。可能であれば、学校を通して依頼するのがいいと思います。

○白城委員 PTAのあり方は、校長先生によってこんなにも変わるのかと感じています。以前の校長先生は、責任は取るから大丈夫と言ってくださる方でしたが、今の校長先生はあまりそういうタイプではないため、難しさを感じています。

そのため、以前はできていたことができなくなったということが、今年は結構ありました。また、先生を巻き込むことについても難しいと言われてしまいました。PTAのTはTeacherだと思うのですが、先生も手一杯だからと言われてしまうと、そうですねとしか言えないところがあります。

○藤野委員 お手伝いする行事をピックアップして、どれか1つはお願いしますと言って募集しているところもあるようです。

肝試しは300人も参加する行事で、自分の子どもが参加するのであれば、お手伝いしてもいいのではないかと考えてしまいます。

○竹内委員 学校地域応援団もありますよね。

○白城委員 私の学校が特殊なのかもしれませんが、そこのつながりが本当に悪いです。読み聞かせについても、学校地域応援団の方に声をかけてないのですかと言われることがあります。なかなか進まないところがあり、全く別のものとなっていて、連携ができていない状況です。

○竹内委員 まち探検とか、そういう時にお手伝いに行っています。

○白城委員 それもうまくいってなくて、全く機能していません。保護者や周りの方を巻き込むことが、あまりうまく連携できていないところがあります。

○竹内委員 PTAの人数が少ないのであれば、そういったところを活用したほうがいいかもしれません。

○藤野委員 わくチャレの人たちにも協力してもらったほうがいいかもしれません。子どもたちもよく知っていますし。

○白城委員 やはりうちが特殊なのでしょう。イベントのときに、わくチャレの方に怒られたことがあります。

○藤野委員 そっちはそっち、こっちはこっちという感じですか。

○白城委員 そうです。

○議長 お話を伺って、組織同士の関係が非常に大事だということが見えてきました。

先ほどの地域教育課からの資料にもありましたが、コミュニティ・スクールという仕組みだけでなく、そもそも学校や子どもたちを支えている人たちがどのように関わっているのか、また、お互いに話をする機会がどの程度あるのかということも重要なのだと思います。

そうした関係が整理されることで、話をしてみよう、相談してみようということにもつながるのかもしれませんが。

皆さんの思いを伺いながら、こういう場や仕組みがあるとよいのではないかということ提言につなげていければと思っています。その意味でも、いろいろな思いを聞かせていただけることは大変ありがたいです。

また、うちではこうだったという経験があれば、それと何が違うのかを丁寧に見ていくことで、より良い形も見えてくるのではないかと思います。

○竹内委員 私はわくチャレのスタッフをしています。面談期間中はお母さん方がお迎えに来ることが多くあります。その際、スタッフに対して、いつもお世話になっていますといった挨拶もなく、子どもに声をかけて連れて帰るだけということがあります。

そういうときに、PTAでもそうですが、お母さん方がわくチャレに来て、いつもお世話になっていますといった挨拶をすることが、最近は少なくなっているのかなとスタッフ同士で話しています。

まずは、そうした挨拶ができるようになるといいのかもしれないなと思いました。保護者の方と顔を合わせたときに会話が生まれれば、今度イベントがあるので手伝ってもらえませんか、といった話もしやすくなるのではないかと思います。

○副議長 これだけ広報活動で学校に入られていて、学校運営についてあまり意見を出せないとおっしゃっていましたが、コミュニティ・スクールができることで、そうした意見を言える場ができるかもしれないと思いました。

これまでPTA活動をされる中で、学校はこうしたほうがいいと感じたことはありますか。

○白城委員 私の学校が特殊なのかもしれませんが、情報提供が遅いと感じています。せっかくホーム&スクールという便利なツールがあるので、もう少しきめ細かく情報提供してくれたらいいのにと感じます。

事後報告だったり、月間スケジュールの中に小さく書かれていたりすることが多いのですが、それだけではなかなか気が付きません。それだけに特化した情報を学年ごとに出してもらえれば見るのと思うのですが、そのことを伝えると、先生方の仕事が増えてしまうという話になります。

あまり多くを求めても、学校側としては先生方の負担が増えるという話になってしまいます。何かお願いをしても、最終的には先生方の負担の話になることが多いのですが、実際に、先生方の負担が増えることも事実なので、難しいところだと思っています。

○副議長 最近は学校だよりなども簡素化されている印象があります。以前であれば学校だよりに掲載していたような内容を、今はPTAの広報が担っている部分もあるのではないかと感じます。

○白城委員 学校がやってくれなくなったので、私たちが代わりにやり始めたところがあります。

○藤野委員 これだけ取材をされていて、広報誌をこまめに発行しているのですか。

○白城委員 公式LINEに掲載しています。ただ、写真を勝手に掲載できないので、写真を使っていいですかと確認を取る必要があります。その作業は大変です。それでも、こうやって発信してくれてありがたいという声は大きいです。

○足立委員 先生方もありがたいと思っているのではないのでしょうか。学年だよりなどの代わりをしてきているわけなので。

○白城委員 取材に入る際も、例えば田植えなど、事前に分かっていたら行けたのにといい方が多いです。直前に言われても休みが取れない、もう少し早く言ってくれたら休みが取れたのにといい声があります。

それを先生にお伝えすると、やろうとしていたのですが、と言われてしまいます。そうすると、忙しかったのですね、すいませんとなることが多くあります。

○竹内委員 自分の子どもがいると、田植えをやっているところの写真が撮りたいから行きたいという保護者も多いような気がします。

○白城委員 そういう方もいるのですが、学校が日程を教えてくれなかったり、学校側に情報発信をお願いして、分かりましたと言われても、1週間前になっても情報が出てこなかったりすることがあります。

○足立委員 よろしいですか。まず、ボランティアについてですが、中学校にたくさん来てくれる小学校があつて、年に2回ほど中学生がその小学校へ行くことになっています。

例年行っているボランティア活動であれば、こちらも11月の第1週の土曜日はあの小学校、9月の第1週はあの小学校というように分かっているので、募集もしやすいですし、何時に行けばいいかも決まっています。

定例化されると、子どもたちも何をすればいいか分かっていますし、こちらも何人送ればいいかが分かるので、ボランティアを派遣しやすいと思います。

また、それがいいことかどうかは分かりませんが、ボランティア活動をしたことを内申書に書いてもらおうと得だという認識を子どもたちは持っているので、ボランティアをやりたいという子は結構多いです。

うちの学校では、30人募集のところ40人集まった場合、受験がある3年生を優先させて、その後1、2年生は抽選にしています。

前の校長先生がボランティア活動にすごく力を入れてくれていたので、その流れがしっかりできています。そのため、ボランティアを送り出しやすい状況があります。やはり、以前からの流れができている活動は進めやすいと思います。

それから、肝試しのイベントはすごいなと思いました。今少し考えただけでも、受付に3人くらいは必要ですね、それと、お化け役もいるのですよね。

○白城委員 お化け役は、前は先生がやってくれましたが、今回は難しいと言われてしまったので、こちらで用意しなければなりません。

○足立委員 校舎を暗くして歩かせるのであれば、ところどころに道案内の人も必要ですね。また、会場の装飾や終了後の片付けにも相当の人数が必要だと思います。

さらに、自転車の整理の人や、場合によっては門のところの警備も必要かもしれません。大道具や小道具の作成など、事前準備もありますよね。

今考えただけでも30人から40人くらい必要なのではないかと思ったのですが、ボランティアは十数人程度なのではないでしょうか。

○白城委員 前は15人くらいでやりました。大道具などは使わず、暗闇の中を歩くだけだったので、事前準備はそれほどありませんでした。ただ、当日の案内役が足りなかつ

たという反省があったため、今回は案内役にもう少し人を配置し、全体で20人くらいはいてほしいと考えています。

○足立委員 それを十数人でやったというのはすごいことだと思います。本当に頑張っていらっしゃるのだなということが、資料を見ただけでも伝わってきました。

それと、前からの流れがないので苦しいというお話でしたが、逆に言えば、しがらみがない分、自分たちで新しいことを始めようとするときには、やりやすい部分もあるのではないかと思います。

現役の保護者がこれはなくてもいいのではないかと思います。しがらみがあるとなかなか変えられないこともあります。その意味では自由度は高いのかもしれませんが、あれやろう、これやろう、このくらいの規模でやろうということも考えやすいと思います。

ただ、しがらみという言葉を使いましたが、応援してくださる方がいることはとてもありがたいことです。同じ行事を継続して実施していると、この時期にはこういう準備が必要だとか、ここには何人必要だといったことを教えていただけるので、その点はやりやすいと思います。

ただ、何かを変えようとするのが難しい面もありますので、現役の方がやりたいことを実現するという意味では、良い面もあるのではないかと思います。

また、私がPTAに期待しているのは、保護者同士のつながりです。子育てはやはり大変ですし、自分の家庭だけで考えていると、どうしても行き詰ってしまいます。なんでこうなのだろう、どうしようもないなと思っていても、周りの人も同じような経験をしていたと分かったら、そんなものなんだと思えたりします。そうした保護者同士の情報共有は、子どもの教育に非常に大切だと思っています。

ただ、本校もPTAの加入率が5割を切るくらいになっており、非常に危機感を持っています。そうすると、例えば学校で子ども同士がけんかをした場合、学校は本人たちや保護者に話をしますが、保護者同士で話ができないと、わだかまりが残ってしまうことがあります。本当はうちの子は悪くないのではないかと、またあの子かといった思いが生まれてしまうかもしれません。

しかし、保護者同士で話ができれば、うちの子もそうだったのかとか、相手の保護者も大変なのだなとか、そういう理解につながることもあると思います。私はそうしたつながりをPTAに一番期待しています。

昔は、半ば強制的にPTAに入ってもらい、会議で顔を合わせる機会がありました。そうすると、会議の本題とは別に、実はこうでといった話が始まり、先生がいる前では言えないようなことを保護者同士で共有することができました。

それが子育てにとっても役立っていたと思うのですが、今はそうしたざっくばらんな話をどこでしているのか、どのように保護者同士の関係を作っているのかを教えていただければと思います。

○白城委員 できていないです。コロナのせいにするわけではありませんが、今の小学校1年生、2年生や年長あたりがコロナのときに生まれた子どもです。その保護者の方は、周りとの関わりがないことが当たり前の環境で子育てをしてきたので、関係性をどのように作ればいいのか分からないという話をされることが結構あります。

そのため、P T Aという形が好きか嫌いかは別として、人とのつながりは持ちたいと思っ
ていても、そもそもどうやって作ればいいのか分からないという声を聞くことが多いで
す。

私はよく児童館に行くのですが、コロナ後の児童館では、友達がいなくて、相談できる人
がいなくて泣いているお母さんが結構いました。ここに来ると話を聞いてもらえて嬉しか
ったとか、友達の作り方が分からないという話を聞くこともありました。

コロナの後、そのままの環境で子育てをしてきたため、相談しないことが当たり前にな
っているという話を聞いて、私もそのとおりだと思いました。

別に本部役員をやってほしいとは思わないので、集まる場所としてP T Aを使ってもら
い、1日のお手伝いの中でも交流が生まれたらいいなと思っています。だからこそ、引き
込まないから、お手伝いだけでもいいので来てくださいと伝えていますが、やはり引き込
まれるというイメージが強いのかなと思っています。

○竹内委員 私の子どもが小学生の頃は、保護者会の後に茶話会がありました。先生は、
何かあったら声をかけてくださいと言って職員室に戻り、その後は保護者同士で話をす
る時間がありましたが、今はないみたいですね。

○白城委員 ないです。保護者会の参加率も低いです。

○竹内委員 そのときは、P T Aがお菓子を用意して茶話会を開いていました。

○足立委員 私が以前勤務していた学校でも、茶話会に参加する人は少なかったです。年
度当初に茶話会の予算を組んでも、開催できず、予算を返すということもありました。

今、話をしていると思ったのですが、その代わりになっているのが、もしかしたらイン
ターネットなのかもしれません。L I N Eのグループなどはまだ学校関係者同士のつながり
ですが、影響力のある人の発信を見て、その意見に流されたり、引っ張られたりすること
もあるのではないかと思います。

○白城委員 たまに話を聞いて、そういう考えもあるのかと思ってしまうのが、とにかく
自分の子どもがハッピーならそれでいいという考えです。例えば肝試しをやるとして、自
分の子どもが参加しないのであれば、肝試しはしなくてもいい。逆に、自分の子どもが参
加するのであれば手伝うという考え方です。

P T Aは、そもそもみんなのためにという気持ちがないとできない活動だと思いま
すが、我が子がハッピーでないことには協力したくないという考えを持っている方も結構い
らっしゃいます。

そのため、地域みんなのためにという考え方が、なかなか受け入れられにくい時代な
のかなと感じています。

○議長 大変興味深くお話を伺いました。お約束していた時間を少し過ぎてしまいましたが、
こうして様々なお話を伺えることはありがたいと思っています。この後、遠藤委員か
らのご報告もありますので、一旦区切りとさせていただいてよろしいでしょうか。

それでは続きまして、遠藤委員からご報告をお願いいたします。

○遠藤委員 よろしくお願ひします。まず、活動していることについてですが、息子が通
っている中学校でP T A会長を務めており、現在2年目です。高校3年生の娘と中学2年
生の息子がおりまして、生まれも育ちも新小岩です。私が通っていた小学校と中学校に、
子どもたちも通っています。

小学校のときは、PTAの活動はほとんど何もやっていませんでしたが、おやじの会に参加していました。昨年20周年を迎え、娘が小学校2年生のときに誘われて入りました。現在もOBとして活動しており、9年ほど関わっています。

おやじの会では、PTA活動とは別に年3回程度行事をやっています。今の時期であればペットボトルロケットを飛ばしたり、10月には学校キャンプをやったりしています。

ちょうど今、通っている二上小学校が建て替え中ですが、建て替え前は、会費を集めて校庭で打ち上げ花火も実施していました。毎年近隣から苦情もありましたが、警察、消防、保健所など必要な手続きを行った上でやっており、十数万円をかけて打ち上げていました。

コロナ前は、1年生、2年生は保護者同伴で教室に泊まり、3年生から5年生は体育館、6年生は亀有学び交流館から借りたテントを校庭に設営して泊まっていた。全校児童約600人のうち、毎年200人程度が参加していました。

キャンプなので家庭科室でカレーを作り、翌朝は流しそうめんを行うのが定番でした。ただ、コロナもあったため、現在は6年生のみを対象に体育館でやっています。

今年は校舎が新しくなったため、今後どのような形でやっていくかはこれから検討することになります。私はOBとして、ここ4、5年ずっとカレー作りを担当しています。

中学校では、上の子どものときに、PTA会長、会計監査、副会長を務めました。1年空いて、現在は下の子どもの関係で再びPTA会長を務めており、今年は中学校PTA連合会（以下、中P連）の会長も務めています。

基本的には学校行事のお手伝いと、PTAとしては、総会を開催せず、全てウェブ上で反対、賛成の意見を通した上で、その後に歓送迎会という形で開催しております。地域の方や学校評議員の方などに参加していただき、地区センターで50人くらい集まってやっています。

また、12月には親睦会として学校で餅つきをやっています。私が中学生だった頃は、生徒も一緒に参加する餅つき大会でしたが、現在は安全面の観点から、消防団や町会の方にお手伝いいただいてやっています。昨年は餅を120キロ作りました。今年の2年生が200人もいるので、量を増やしました。

PTA活動としては、それらの行事と、入学式、卒業式、学芸発表会、体育祭などの学校行事のお手伝いが主な活動です。PTAの構成は、私を含め役員が14人おり、その下に学年委員、広報委員、文化委員、購買部などがあります。

ただ、役員を引き受けたがらない方が非常に増えているので、今年は昨年広報部長や文化部長、購買部長を務めていただいた方に、何とか役員として残っていただきました。それに関しては、その係だけやってくださいということで、他の係に関してはほぼ動いていません。

事実上動いているのは、私と女性の役員2人です。それぞれの委員会は独自に動いていただいております。今年は中P連の業務もあるため、学校のPTAの活動は、副会長2人を中心に進めてもらっている状況です。

生活の中でのPTAということですが、コロナ以降、会社でフレックス勤務や在宅勤務ができるようになりました。本日も在宅勤務として調整し、この会議の時間はフレックス

勤務を利用しています。この後、お客さんのところへ向かう予定です。コロナ前に比べると、だいぶ動きやすくなったと思います。

新小岩には、青少年育成地区委員会が新小岩北地区と奥戸地区の2か所あります。特に新小岩北地区については、もともとPTA役員や会長を務めていた方がいて、地域の連携は比較的うまくいっていると感じています。

先ほどの親睦会についても、中学校の町会は上小松町会という大きい町会で、そこの方に手伝っていただいています。また、ほかの町会の方にも手伝っていただいています、PTAも町会の行事を手伝っているため、持ちつ持たれつという形でやっています。

来年は中学校が創立80周年ということで、これからどうするかという部分もありますが、地元の方やOBの方に協力していただきながらPTA活動を行っていて、現役だけではなかなか厳しくなっているのが現状です。

PTAにこうあってほしいと願うことですが、学校に預ければ、もう私は関係ありませんという保護者が結構多いと感じています。学校キャンプを実施する中でも、緊急連絡をしなければならない場面で連絡が取れないことがあり、電話をしたら酔っ払っていたというような経験もありました。PTA活動をして思うのは、学校に全部任せきりの保護者が多いと感じます。

また、もう1つの課題として、多様化が進んでいることがあります。うちの中学校でも外国籍の方、特に中国やタイの方が増えています。生活環境や考え方が異なるため、説明してもなかなかご理解いただけないことが、昔に比べると多くなっています。多様性の中でどのように対応していくかは、今後考えていかないといけない課題だと思っています。

私は、PTAは会社でいう組合のようなものだと思っています。そのため、会社の組合がやっていることをPTAにも利用できないかと考えながら活動しています。

中学校の場合は、小学校が3校あるのでPTAの考え方がそれぞれ違います。ほとんど活動していない小学校もあれば、何とか活動している小学校もあります。そのため、新たに1年生が入学してきて役員をお願いする際にも、小学校ごとの考え方があるので、まとめていくのが非常に大変です。また、役員が1つの小学校からに偏ってしまっているの、そこは今後考えていかないといけないと思います。

○議長 ありがとうございます。それでは、委員の皆様、ご質問やご感想はいかがでしょうか。

○竹内委員 中学校はいろいろな小学校から来るので、やり方が難しいですね。そのような中で、どのようなことに気をつけて活動していますか。

○遠藤委員 いろいろな小学校の出身者が集まるので、それまで各校で行っていたことを、できるだけ共通化したいと考えています。例えば、役員を6人選ぶのであれば、3校から2人ずつ出いただくのが理想だと思いますが、なかなかそうはいかない部分があります。

正直に言うと、PTAの加入率の問題もあります。うちの中学校は9割くらいの方に加入していただいています。それは、基本的には自動的に加入になりますという説明をしているからです。ただし、どうしても入りたくないという方については、申し出ていただく形にしています。アンケートを取ると、加入率は半分程度になってしまうと思いますので、そこはPTAも逃げ道を作っています。

とある小学校ではP T A活動を行わない方向になっているため、その学校については加入率も低くなっています。ただ、子どもたちから見れば、そこを差別するわけにはいかないと思います。やはり、子どもたちは同じようにしないとかわいそうですし、その点は大切にしなければいけないと思っています。

そのほかにもいろいろな意見が出ていますので、その辺も加味しながら、今後のP T A運営を考えていかなければならないと思っています。

また、来年、再来年以降、どのように役員を選任していくかも大きな課題です。私がいるので来年までは何とかできると思いますが、それ以降をどうするかという問題があります。

コロナ以降、P T Aに対するマイナスのイメージが強くなっていると感じていますので、その部分をどう改善していくかが今の大きな課題です。

○竹内委員 会長が不在の学校もありましたよね。

○遠藤委員 あります。今年度は、中学校で1校、P T A活動が休止となりました。その学校を今後どうしていくのかということについては、中P連の事務局でも話し合っているところです。

○白城委員 実は私は会長ではなく、副会長兼会長代理という立場で活動しています。やっていることはほとんど会長と同じなのですが、どうしても会長と名乗ることに抵抗があります。

幼稚園でP T A会長をしていたときに、P T A会長は幼稚園の顔だから、私生活もしっかりしないといけないと言われたことがありました。私はそんなことを背負って会長をしているわけではないので、それなら会長がいなくても運営できる形の方がよいのではないかと考えています。意固地になるくらい、私は会長にはならないと言っています。

会長とはみたいなことを思っている方も結構いらっしゃるように感じます。男性の方が会長されていることが多いですね。

○事務局 そういうことは結構あるみたいです。実際には会長と同じような仕事をしていても、会長とは名乗りたくないと言って、会長はしないという学校もあります。

○白城委員 ただ、校長先生にすごく嫌がられます。組織として、しっかりトップを置いてほしいと言われます。

校長先生にお聞きしたかったのですが、P T A会長は校長先生の相談役も兼ねているとおっしゃっていた校長先生がいらっしゃいました。私が、うちには会長はいませんと言ったところ、私は誰に相談すればいいのですかと言われたことがあります。

そのときに、P T A会長は校長先生の相談役も兼ねているのだろうかと思いました。だから、男性の方だと校長先生も話しやすいのかなと思ったこともあります。

○伊藤委員 それは全然ないと思います。

○白城委員 遠藤委員は相談役ですか。

○遠藤委員 私は違います。大体学校評議員の方が話をされています。

○伊藤委員 緊急なことや児童に関わる大事なことは、P T A会長にすぐ連絡します。

○足立委員 保護者の方が動揺しそうなことあった場合は、事前にP T A会長へ状況を説明して、学校としては今後このように対応する予定なので安心してくださいという話をします。

何かあると、保護者の方はまずPTA会長に連絡することが多いので、そこで話をしてくれると全体として落ち着きます。何の情報もないと、よくない話を聞いた人がパニックになると思います。また、学校は何もしていないという話になってしまうこともあり、それは学校運営上よくありません。そうならないように、そこは会長に相談しています。

○伊藤委員 会長や本部の皆さんからも、保護者の方の意見など、いろいろな情報をいただいていますので、とてもありがたい存在だと思っています。

○足立委員 保護者の意見や考えを伺いたいときは、やはり会長に相談します。

○遠藤委員 あとは、青少年委員に相談していることもあります。私の地域の青少年委員は、もともとPTAの役員やっていた方なので、その辺のつながりもあります。

○事務局 青少年委員は非常勤公務員であり、学校、地域、PTAをつなぐパイプ役です。ただ、青少年委員によって考え方が異なりますし、PTA経験のない方もいらっしゃいます。基本的には学区域から選出されるため、必ずしもPTA経験者になる制度ではありません。意識や関わり方に違いはあるかもしれませんが、PTA経験のある青少年委員であれば、PTAとの距離が近く、相談しやすい面はあると思います。

○伊藤委員 結構そういう方が多い気がします。

○竹内委員 9割以上はPTA出身だと思います。特に男性は、PTA会長だった方が多いと思います。

○事務局 そういう流れになっていますが、制度上は学区域からの選出であり、学校やPTAからの選出ではありません。そのため、地域活動をされている方が青少年委員になるというケースもあります。

○竹内委員 青少年委員は学校評議員が選びます。私は青少年委員を10年やりました。

○足立委員 PTAの話を聞いていて思うのですが、昔からその地域に住んでいる方が多い地域では、自分が子どもの頃に地域の方にいろいろ教えてもらい、保護者になったときに、あなたも青少年委員をやりなさいと声をかけられて引き受けるとか、縦のつながりができている地域は、活動に協力してくれる方も多いのではないかと思います。

それこそ、親がやっていたから自分もやろうとか、子どもの頃からそうした活動に参加していて様子が分かっているので、引き受けてくれる方も少なくないと思います。

ただ、同じ葛飾区の中でも、そのあたりは地域によってかなり違うのではないかと思います。

○遠藤委員 今活動していて感じるのは、学校評議員の方が私の同級生のお父さんだったり、コーディネーターの方が元PTA会長だったり、民生委員・児童委員の方も知り合いだったりすることです。昨年は奥戸地区委員会の会長が私の同級生のお母さんでした。よくたどってみると、いろいろなところでつながりがあります。

PTA役員の中にも上小松中学校の卒業生が3人いて、区役所に勤めている方や、私より少し年下の方もいます。

どちらかというと、新小岩は地元に残っている方が多い地域です。例えば、金町は再開発で新しいマンションが増えています。新小岩は一軒家が多い地域なので、その違いもあるかもしれません。

○足立委員 その違いは大きいのだろーと思います。

○遠藤委員 新小岩も再開発が進んで高層マンションが建ってきていますので、今後はまた状況が変わっていくのかなと思います。

○足立委員 東京都の会議で情報交換をするときに、新しい住人の方々という言い方をします。昔から住んでいる方々と新しい住人の方々のバランスが変化していく中で、難しい問題が起きるとするのは、ほかの地域でも聞きます。

○遠藤委員 逆に言うと、うちの地域では新しく入ってきた方が町会に入りづらいという面があるかもしれないです。前はこうだったという話が結構あります。前回もそうだったから、今回も同じようにやらなければならないというルールになっていることもあります。ただ、30年前と今とでは生活スタイルも大きく変わっていますので、今の時代には合わないことについては、そのことを説明しながら変えていく必要があると感じています。

例えば、PTA会長についても、昔は地元で工場をやっている方が会長をやることが多く、要するに地元に基づいている方が中心でした。今は、私のような会社員が会長を務めることも多くなっていますので、そうしたことも考えながら、あり方を見直していかないといけないと思っています。

簡素化できるところは簡素化して、残すべきところは残すということは、毎年歓送迎会の挨拶でも最初に話しています。ただ、実際にはなかなか思うように進んでいないのが現状です。

○白城委員 花の木小学校は、新しく入ってきた方が多いので、その影響は大きいのかもしれません。

○遠藤委員 逆に、うちの学校は外国人の方が増えています。クラスに1人か2人はいらっしゃるのではないかと思います。

○議長 情報提供は日本語で行っているのですか。

○遠藤委員 日本語です。小学校には中国語を話せる先生がいたりしますし、そのまま中学校まで上がってきていますので、中学校では日本語を全く話せないという方は、そこまで多くないのではないかと思います。

○足立委員 外国籍の方にPTAへ加入していただくに当たっては、課題もあります。そもそも、PTAという仕組みが自分の国にないので、それは何ですかというところから始まりますし、なぜ朝当番に行かなければならないのですかという反応になることもあります。

また、委員会に入ってもらっても、担当者が連絡を取ろうとして電話をしても、うまく話が通じないことがあります。そうすると、あの人とはうまく話が通じないから難しいとなってしまうことも、少なくないと思います。

○議長 区内でも、お便りを翻訳して説明する取り組みなどが進められているというお話は、これまでも伺っています。そういう課題になる部分に、誰かが応援しようとする試みがあることも、情報として共有していくことが必要かなと思いました。

話が少しそれてしまうのですが、先ほど青少年委員は非常勤公務員であるというお話がありました。昨年度の終わり頃からもお話ししていますが、地域には様々な立場の方がいて、PTAも任意団体という位置付けです。

そうした中で、どのような立場の人が、どのように関わっているのかを明らかにしていないと、どこから関わればよいのか分からず、不安に感じる方もいるのではないかと思います。

例えば、地域の中に関わりたいと思っている人がいたときに、ここから入れば関われますよということが見えるだけでも、協力の得られ方は変わるのではないかという話も、これまで少しずつ出ていました。

そういった組織同士の関係については、私たちもまだ雲をつかむようなところがありますので、事務局にもお願いしているところです。簡単に整理できるものではないと思いますが、誰でも共有できるような図や整理があると、とても話がしやすくなるのではないかと思います。

それは、コミュニティ・スクールの構想とも重なる部分があると思いますので、その点も含めて協力して進めていただければと思います。

○遠藤委員 任意団体であるという壁があって、任意なのだから入らなくてもいいですよという考え方は、ここ最近増えているように感じます。ただ、学校としてPTAは必要だとみんな言いますが、やってくださいと言うと、任意なのだから入らなくてもいいですよねという話になってしまいます。

中P連の中でもいろいろな話をしていますが、やはりその点は必ず話題になります。PTAをどのような組織として考えるのか、組織的なものなのか、それとも組合のようなものなのかということについても、いろいろな意見があります。

○議長 PTAは、もしかしたらPAというか、本当に保護者の組織として改めて位置付け直すことも1つの考え方なのかなと思っています。そうすると、保護者であること自体は変わりませんし、任意であることとの関係は別にしても、保護者としての立場や位置付けがより明確になるのではないかと思います。

これからいろいろな組織と並んで考えていくことになるかもしれませんが、その中で保護者という立場が持つ大切な役割も、より見えやすくなるのではないかと思います。今は先生との関係の中で、歴史的な経緯もあり、PTAという形になっていますが、学校と関わる組織や団体が増えてきている中で、もしかすると名称や位置付けを整理することで、役割がより明確になるのかもしれない。

まだ私の考えの段階ではありますが、提言をまとめていく中で、より納得のいく表現に整理できればと思っています。

○足立委員 そのためには、先ほどから何度か話に出ているように、保護者が学校や地域に関わるのが大切なのではないかと思います。責任を持つという言い方が適切かどうかは分かりませんが、関わった結果として、楽しかった、よかったという経験をしていただければ、保護者が学校や地域に関わること自体が楽しいことになっていくと思います。

先ほどもありましたが、一度PTAに入ると引きずり込まれるといったイメージがあると、どうしても入りづらくなってしまいます。また、外国籍の方に向けたプリントなどを見ていても、日本人の保護者の方々にPTAは大変だからという思いがあるから、無理に誘わなくてもいいのかなと考えてしまうこともあるのではないかと思います。

そうではなくて、子どもを育てていく中で、自分が学校に関わることは楽しいことであり、子どものためにもなるから関わろうと思えることが根底にあれば、うまくいくのではないかと思います。

ただ、今は逆の情報がたくさん出ていますので、その辺りをうまく調整していけるとよいのではないかと考えています。

○議長 無理やり話をつなげるわけではありませんが、そうしたお話も踏まえて、地域教育課からいただいた資料と併せて、提言書構成案のたたき台をご覧いただければと思います。

詳しく説明するというよりも、これまでの質疑の中で様々なお話が出てきましたので、そうしたことも踏まえてお聞きいただければと思います。

それでは、議事の2に進みます。資料7 提言書構成案たたき台をご覧ください。葛飾区社会教育委員の会議では、2年ごとにテーマを設定して協議を行い、最終年度の最後に提言や答申などを取りまとめています。名称はそのときによって異なりますが、最終的には2年間の協議の成果を1冊の冊子としてまとめています。今期も、最終的には冊子として取りまとめたいと考えています。

提出先は教育委員会、教育長となりますので、こうしてほしい、こうあるべきでないかといった提案を整理しながらまとめていくことになります。そのためのたたき台として、今回構成案を考えてみました。

はじめにから始まり、大きく1と2、最後におわりにという形になっています。はじめにでは会議の経過を含めて簡潔にまとめ、その後、葛飾区のPTAをめぐる現状と課題としています。

現状については、事務局と相談しながら、統計などの数値データや、関連団体との関係を図式化したものを示せたらいいと思います。また、本日いただいた文部科学省や葛飾区の資料の考え方も反映できればと思います。

その上で、課題の部分では、委員の皆様からご報告いただいた内容や、これまでの議論の中で出てきた内容を整理したいと考えています。

是非をめぐる議論と書いていますが、非という話よりは、これまでずっと議論してきたことを整理する意味合いです。

2つ目のところは、任意団体であることと、行政の関与の限界です。PTAが任意団体であるということと、行政の関与には限界があるのか、あるいは可能性があるのかということも考えています。

3つ目のところは、我が子のためにとフリーライダーです。ここではフリーライダーという言葉を書いています。やってくれば乗るよという話なのか、それとも一緒にやるのかということも含めて、どこまでをPTAが担うのかという線引きを考えてみたいと思っています。

それは、もしかするとPTAの範疇を超える話かもしれませんが、その先には地域づくりへの参画ということもあるのではないかと考えています。

そうした現状と課題を踏まえた上で、提言に入ります。

まずは、一文で端的に示せるような提言をいくつか書ければと思います。例えば、これからPTAと関わる方や、これから小学校に入学する子どもの保護者に向けたメッセージという形もあると思いますし、あるいは、PTAではない諸団体の方々に、どのようにつながってほしいのか、協力したいと思えるのかといったこともあると思います。

また、区に対して、何ができるのか、何をしてほしいのかという提言もあると思います。そして、最終的には未来の地域の担い手を育てていくということにつながるのではないかと考えています。

これまでのお話にもあったように、この街で生きていくということが根本にあるのではないかと思いますし、その中で、子ども時代や保護者になったときに関わる場として、PTAが位置付けられたらいいのではないかと考えています。

ということで、提言を少し補足する説明があるといいと思います。ただ、たくさん説明があると、伝わりにくくなってしまうので、できるだけシンプルで、読んでもらえるものにしたいと考えています。

皆さんからたくさんご意見をいただきながら、ブラッシュアップしていければと思います。ご意見やご感想をいただければ嬉しいです。

○白城委員 先ほど、PTAではなくてPAといったお話がありましたが、私は幼稚園でPTAを引き受けたときから、実は今でもPTAの反対派です。PTAに対してネガティブな印象を持っている方があまりにも多いので、PTAではなく、全く別のコミュニティーサークルとか全然違う何かに早くなしてほしいと思っているくらいです。

これだけPTAに関わっていますが、PTAがなくても回る仕組みになってほしいと思っています。PTAがなくても、みんな地域の子どもたちを思って、学校に参加して、先生に負担もかけずというものができたら、本当にいいと思っています。先ほどのPAという話を聞いて、やはり違う形があってもいいのではないかと感じました。

○竹内委員 ただ、誰かまとめる役割は必要ですね。

○白城委員 それも、PTAという形でなくてもいいのではないかと考えています。

○竹内委員 それでは、誰がまとめるのでしょうか。

○白城委員 コミュニティ・スクールの資料もまだ読み込んでいませんが、もっと大きい枠組みの中に組み込むこともできるのではないかと思います。PTAありきで世の中が進んでいるので、別の方法を考える人がいないだけではないのかと思っています。

○副議長 お話を伺って感じたことは、保護者の立場からすると、教育という話になると学校がやればいい、安全についても外部に任せればいいという考え方になりがちだということです。

ただ、ここには人を突き動かすものがあると思ったのは、子どもが肝試しに参加したい、学校に泊まってみたいといった、純粋に楽しみたいという気持ちです。学校の仲間と一緒に楽しみたいという思いが軸にあって、それに大人が巻き込まれていくという構造が見えました。

裏を返すと、PTA活動の中で、教育的な活動と楽しむための活動が混在していることが、分かりづらさにつながっているのではないかと感じました。

子どもの意見を尊重することが重視されている時代だからこそ、子どもがやりたいものに大人が巻き込まれていく、支援してあげるといった構図にもう少し変わっていけないの

かなと思いました。そうなれば、大人も楽しいと感じられるようになるのではないかと思います。

○事務局 今、歌川先生がおっしゃった、P T A活動の中で教育的な活動と楽しむための活動が混在しているというお話は、私もずっと感じていたことです。

子どもたちがやりたいと思うことというのは、単に個人が何をしたいかということだけではないと思います。例えば、ディズニーランドに行くことと学校に泊まることは違います。いろいろな仲間と一緒に過ごしたり、活動したりすることに価値があると子どもが思うのであれば、そこを支えるのは保護者や地域の大人だと思います。

そうした関係性をつくるに当たって、今のP T Aというスタイルではないものができるのであれば、それはそれでいいと思います。また、P T A以外にも、青少年委員、地区委員会、おやじの会、学校地域応援団など、学校を取り巻く様々な団体があります。

それぞれに役割があって活動しているわけですが、その役割を明らかにしながら役割分担や再構築ができれば、もっと分かりやすい活動になるのではないかと思います。

皆さんのお話を聞いていると、学校地域応援団はどんな活動をしているのか、おやじの会とはどのような会なのか、地区委員会とはどのような組織なのかということが、お互いによく分からないまま、何となくつながっている部分があるように感じます。

そうしたことが、分かりづらさの1つの要因であり、それぞれが学校とどのようにつながり、どのような活動をしているのかがもっと分かるようになると、P T Aだけでなく、保護者の方々も様々な人たちに支えられながら子どもが育っているということを実感できるのではないかと思います。

先ほど議長がおっしゃった関係図というか、学校を取り巻く様々な団体がどのような形で関わっているのかについては、ご意見も伺いながら、事務局として資料をお示ししたいと思います。その関係図に肉付けしていただき、本来どうあるべきなのかといった議論をしていただければと思います。

○議長 よろしくお願ひします。それぞれ皆さんのお立場から見て、こうじゃないのかということ、を、どんどん言っていただくのが1番いいと思います。

○事務局 そうですね。それがいいと思います。

○議長 役所としてはこう整理しているけれど、それは違うのではないかとということも、率直に言っていただければいいと思います。

○遠藤委員 私もP T A会長を2年やっていますが、昨年会長になったときに、正直なところ、なんでこんなに会議が多いのだろうと思いました。

校長先生もそうだと思いますが、地域の様々な会議に参加しないといけないとか。地区委員会も月1回会議があり、P T Aから1人、学校から1人出席することになっています。地区委員会も2つあるので、もう一方は別の方にお願ひしています。

地域とのつながりは大切だと思いますが、それに加えて町会の集まりにも参加しなければならないので、その辺りをもう少し簡素化できるのであれば、活動しやすくなるのではないかと思います。

P T A会長になってから、この1年くらいずっと感じていることですが、こんなにたくさんあるのかという部分を整理して、これだけはやりますという形にした方が、むしろ引き受けてくれる人は増えるのではないかと思います。

○議長 考えながら話しているので、うまく表現できないのですが、名目的・形式的な重さと、実質的な重さが、いろいろと混ざって存在しているのだと思います。

まさに会議などは、形式的な重さによって続いている部分もあるのかもしれませんが。ただ、そこを引いたとしても、別の形で実質的な役割を担う人がいれば成り立つ部分もあるのではないのでしょうか。

そうしたことが見えるようになると、とてもいいなと思いますし、全部を頑張って抱え込まなくてもよい部分が見えてくれば、PTAとして本当に取り組むべきことも、もう少し絞られていくのではないかと思います。

○伊藤委員 地域や学校によって、その辺りも全然違ってくると思います。PTAのTがなくなってしまうと、学校としても辛い部分があります。PTAの良さというのは、子どもたちがより良く、安心・安全な学校生活を送るために、教員と保護者が協力する仕組みであることです。

名称や形式、あるいは前例踏襲的なやり方については、これからブラッシュアップしていかないといけない時期に来ていると思いますが、保護者と教員が協力すること自体はとても大事だと思います。

運動会も教員だけで成り立つものではありませんし、大きな行事は特にそうです。また、日頃の安全管理についても、保護者が当番をしてくださるから成り立っている部分がありますし、地区委員会とかの連携についても、保護者の方がつないでくださるからこそ成り立っていることがたくさんあります。

やはり学校をより良くしていくためには、協力できる仕組みは絶対に必要だと思います。PTAという名称が嫌であれば、名前を変えることはあるかもしれませんが、それはすごく感じています。

○議長 だからこそ、先生方はPとついていないところとも、いろいろとつながっていないといけないのだと思います。その中で、PTAは保護者と先生の両方が主役として位置付けられている組織ですし、ほかの団体とも関係を持っています。その中で、PTAがどのような位置付けにあるのかを、より明確にできればいいのではないかと思います。

話せば話すほど複雑になってしまいましたが、責任の範囲のようなものが整理されると例えばこの部分だけ協力するという形も選びやすくなるのではないかと思います。

それはPTA活動に限らず、地域の方がこういう形なら関われると思えたり、保護者がこの形なら参加できると思えたりするようになれば、いろいろな人の思いを受け止めやすくなるのかなと思っています。

今まで積み重ねてきた大切なものも尊重しながら、そのようなことを考えていけたらと思っています。

○白城委員 時間がないところ恐縮ですが、質問させていただいてもいいのでしょうか。校長先生や副校長先生は、PTAはとても大切だとおっしゃってくださいますが、若い先生方も同じように思っていらっしゃるのでしょうか。

保護者の方が先生より年上であることも多い中で、保護者を巻き込んでください、これを伝えてくださいとお願いしたときに、先生の中にはPTAを少し負担に感じている部分もあるのではないかと思います。

若い先生の中には、保護者を巻き込むことに対して、実はあまり積極的ではない方も多いのかなと感じています。

○足立委員 P T AのTが抜けることについて、ありかなしか悩んでいましたが、自分が最後の年代だからかもしれませんが、中学校が荒れていた時代がありました。

その頃は体力勝負で、口で言ってもなかなか伝わらない子どもたちもいました。そういう中で、子どもとはつながれなくても、保護者とつながることで、子どもたちが少し聞く耳を持ってくれるということがありました。私はそういう時代を乗り越えてきました。

そのような経験をしてきたので、困ったときに保護者との信頼関係を築いておくことはとても大切だと思っています。

この話をしていると思うのは、学校はいろいろな組織と関わりますが、子どもを中心に考えたときに、保護者との関係は非常に大きいということです。

そういう意味で、保護者と良い関係をつくりたいというのは、中学校で苦しい時代を経験した教員であれば、みんな思っていることだと思います。

一方で、同じぐらいの年代でも、比較的落ち着いた地域の学校で働いてきた人は、その思いがそこまで強くない場合があります。

若手の教員という話が出ましたが、恐らく本当に苦しい場面を経験していないので、保護者とつながる意味が分かっていない人は、そういう考え方をしてしまうのかもしれませんが。

できるだけ若手にも、何かあったときに、保護者があの先生は良い先生だから話を聞きなさいと一言言ってくれるだけで、その子どもの先生に対する見方が変わる。そうすると先生のやりやすさも変わるし、教育的な効果も変わるという話はしています。

ただ、実際に経験している人と経験していない人とでは、保護者の協力のありがたさを本当の意味で理解しているかどうかには違いはあると思います。

私たちが保護者と関わるのは、先行投資だと思っています。子どもが困ったときに、保護者に味方になってもらわないとうまくいかないことがあるので、そのために時間も使います。

子どもと関わること自体が楽しいという気持ちもありますが、それだけではなく、先生は保護者との関係をつくりたいと思っています。

○伊藤委員 地域との関係もちろんですが、日頃から関係づくりをしていることで、同じ事象が起きても対応が変わってくるということがあります。うちのP T A会長も、日頃から、地域との関係づくりを地区委員会とかでもしてくださっていて、お互いの信頼関係を築く上で本当にありがたい存在だと思っています。

教員もいい経験をしていくと、そうした関係づくりを大切にするようになります。若手教員については、経験が少ないという意味で、これから経験しながら学んでいく部分もあると思います。それは保護者の方々についても同じで、そうした経験がないために、なかなか踏み込めない方もいらっしゃるのかもしれませんが。

そういう意味では、教員も保護者も、そうした経験ができるような環境をつくっていくことが大切だと思っています。

○議長 この文部科学省の資料などを見ても、保護者の存在が相対的に小さく見えがちだと思います。別にそういう角度で読んでいただきたいわけではないですが、今ちょうどそ

ういう議論が出てきたところですので、PTAはやはりPである部分が一般的にどのような位置付けにあるのか、そして現実にはどのように位置付けられるべきなのかということを考えながら見ていただくと、次のたたき台に対しても、たくさんご提案をいただけるのではないかと思います。

本日のお話を踏まえて、宿題をあまり出して次が嫌になってしまうかもしれませんが、いろいろな思いを持ちながら、次回またおいでいただけたら嬉しく思います。

ということで、本日はまとまりませんでしたが、次回以降のスケジュールについて、事務局からお話しただいてよろしいでしょうか。

○事務局 資料8をご覧ください。10月以降の日程が決まっていなかったところについて、正副議長と調整の上、日程を決定いたしました。

ご注意いただきたい点と訂正箇所がございます。まず訂正箇所ですが、2月12日となっていますが、正しくは2月19日金曜日です。

それから、時間のところに線が引いてある箇所が3か所ありますが、特に10月2日の会議時間については、通常午後2時から4時で開催しているところ、この日は時間が後ろにずれており、午後4時から6時の開催を予定しています。

そのほか、2月と3月も一部時間が異なっておりますので、ご注意くださいと思います。特に10月2日につきましては、時間が大きく異なっておりますので、ご都合がつかない場合は、事前に欠席のご連絡を事前にいただければ幸いです。

次回は8月7日金曜日、午後2時から701会議室で開催いたしますので、ご出席方よろしくお願いいたします。

内容につきましては、これから正副議長と確認させていただきますが、先ほど議長からお話があったとおり、地域教育課から資料をご提示いただいておりますので、ご自身のお立場でPTAに対する思いや考えを持ちながら資料をご覧くださいと、また見え方が違ってくると思います。

それぞれのお考えを持った上で資料をご覧ください、聞いてみたいことがありましたら、ぜひメモ等をお取りいただいて、次回の会議に臨んでいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

それから、来週14日ですが、葛飾区教育振興基本計画推進委員会がございます。社会教育委員の会議を代表して竹内委員にご出席いただくことになっております。内容や感想につきまして、次回8月7日の会議の際にご報告いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。事務局からは以上でございます。

○議長 ありがとうございます。竹内委員には連日の会議で恐縮ですが、よろしくお願いいたします。それでは、そのほか何かございますでしょうか。あるいは、地域教育課の皆さんから何かございますか。よろしいでしょうか。今後いろいろなことが出てきましたら、また教えていただければと思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。

それでは、第11回会議を閉会したいと思います。本日はどうもありがとうございます。